

阿賀野市立小学校外国語活動及び中学校英語教育の推進について

阿賀野市では、グローバル化に対応した人材の育成に力を入れている。その一環として、市立の小学校及び中学校において、これまでも、外国語指導助手（以下「ALT」という）を配置し、外国の人や生きた英語に接する機会を提供し、誰とでも臆することなく外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成を図ってきた。

平成32年度から全面実施となる新学習指導要領では、小学校中学年で外国語活動の導入、高学年で外国語が教科化される。中学校英語科では、小学校の学習を踏まえ一層のコミュニケーション能力の育成が求められている。

阿賀野市では、平成30年度から始まる移行措置及び平成32年度（中学校は平成33年度）から始まる新学習指導要領の全面実施に向け、新学習指導要領の内容も踏まえた外国語活動・英語教育の改善を図っていく。

1 小学校外国語活動

(1) コミュニケーション能力の素地・基礎を養うための4つの活動

- ① 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる活動
 - ・ 児童にとって身近な話題について、積極的にコミュニケーションを図る楽しさを体験する。
- ② 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深める活動
 - ・ 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付く。
 - ・ 異なる文化をもつ人々との交流体験から、自他の文化等の理解を深める。
- ③ 自分で考え、表現する力を身に付ける活動
 - ・ ALT等とのコミュニケーション活動を通して、自分の好きなことや身近で簡単なことを考え、伝える力を身に付ける。
- ④ 外国語の音声やリズム・文字などに慣れ親しみ、日本語との違いを知り、言葉の仕組みに気付く活動
 - ・ 外国語で歌ったりチャンツをしたりすることを通して、外国語特有のリズムやイントネーションを体得し、日本語と外国語との音声の違いに気付く。
 - ・ 日本語にない音に触れたり、慣れ親しんだりすることを通して、言語についての興味・関心を高める。
 - ・ アルファベットの文字や単語などを認識し、語順の違いなどの文構造への気付きなど、言葉の仕組みを理解する。

(2) 確かな力を身につけるための授業づくり

- ① 児童が見通しをもって学習活動に取り組めるように、児童と学習のゴールを共有する。
 - ・ 単元の目標を明確にし、単元の終わりに何ができるようになるのかが児童に分かるようにする。
 - ・ 毎時間、児童とめあてを共有するとともに、何ができるようになったか、分かったことは何か、振り返る場面を設定する。
- ② 学習形態を工夫する。
 - ・ 言語を習得するにふさわしい会話の学習においては、ペア、グループ、クラス全体等、学習形態を工夫し、全ての児童が発話しやすい状況をつくる。
- ③ デモンストレーションを行い、児童に活動のイメージをもたせる。
- ④ 児童の理解の状況に応じ、必要な場合は日本語で話したり、説明したりする。
- ⑤ 繰り返し指導する。

- ・学習したことの定着を図るため、繰り返しの指導だけでなく、学んだことを活用したコミュニケーション活動、歌やチャンツ、絵カード等の教材を活用する。

⑥ ALTを効果的に活用する場面を設定する。

(3) 学級担任の先生が自信を持てる授業の仕組みづくり

学級担任は、児童の興味・関心をよく把握している。また、児童にとって身近な存在であり、外国語の学習者としての見本となる。学級担任が自信をもって、指導計画や指導案づくり、授業に臨めるよう、学級担任への研修を進める。

- ① 外国語活動及び外国語に関する外部講師による研修を設ける。
- ② ALT等を活用し、校内での外国語の研修を進める。
- ③ 中学校の英語科の授業参観等を通して、指導力の育成を図る。

2 中学校英語教育

(1) 身近な事柄を中心に、英語を用いてコミュニケーションを図ることができる能力を養うための指導

- ① 聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり）、話すこと（発表）、書くことなどの総合的な言語活動を通して、コミュニケーション能力を育てる。
 - ・音声、語彙、表現、文法の知識を身に付けさせ、実際に英語を用いて、互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行う。
- ② 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 - ・具体的な目的・場面や状況に応じて、情報や考えなどを整理して、簡単な語句や文を用いてコミュニケーションを図る活動を行う。
- ③ 英語の背景にある文化に対する理解を深める。
 - ・生徒の発達段階や興味・関心に即した題材を用いて、世界の人々や我が国の生活、習慣、地理、歴史、伝統文化などについての理解を深める。

(2) 確かな力を身につけるための授業づくり

- ① 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力を明確にして指導する。
- ② 学習到達目標を設定し、主体的な学習を目指す。
 - ・「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定し、生徒がめあてをもって学習に臨むことができるようにする。
 - ・単元及び授業のねらいを生徒と共有し、「学び合いの活動」「まとめ」「振り返り」を確実に行うことで、学習内容の理解及び定着を図る。
- ③ コミュニケーションの目的や場面、状況などを具体的に設定した活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。
- ④ コミュニケーション能力の育成に向け、ALTを効果的に活用する。

(3) 授業者の指導力の向上

- ① 英語プロジェクトによる、英語担当者会議での授業研究及び外部講師による英語担当者への学校訪問指導を行う。
- ② 市教育委員会主催による、外国語指導実技研修会を開催する。

3 小学校と中学校の連携

小中学校の学びをつなげ、児童生徒のコミュニケーション能力を高めるため、小学校と中学校の情報交換及び協議を行っていく。

- | | |
|---|--|
| 例 | <ul style="list-style-type: none"> ・互いの外国語活動や外国語教育の授業の参観及び協議 ・児童生徒の状況、学習内容、教材、指導アイデア等の情報交換 ・目標の一貫性、学習内容の系統性、指導法に関する共通理解 |
|---|--|